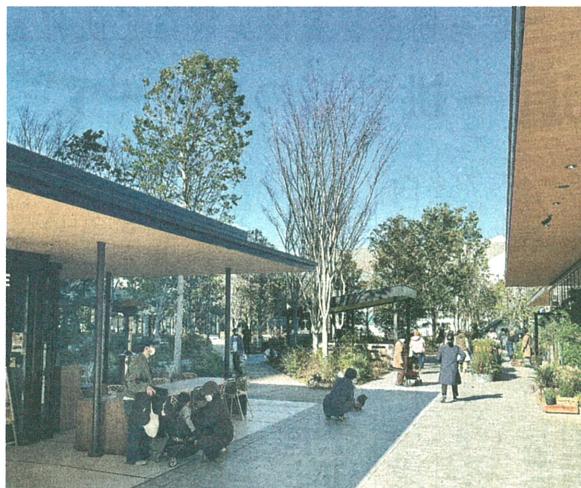


探訪 新ライフスタイル

少子高齢化の加速が止まらない。2020年の婚姻数は前年比マイナス16・2%と見込まれ、21年の出生数は大幅減の予測だ。一方、20年の65歳以上の高齢化率は28・4%に上昇した。この社会課題に直面し、ファミリーを中心としたシヨッピングセンター(SC)にも転機が訪れている。

子育てに優しいSC続々



昨年開業した複合施設「グリーンスプリングス」(東京都立川市)

ライフスタイル

SC生誕の地である米国では、ネット通販の浸透に加え、供給過多と同質化も

9年に玉川高島屋SC(東京・世田谷)の開業から全国に広がり、2009年に約1万平方㍍の中央広場バ

ーで構成された複合施設

ミリーの取り込みだ。

あつて、もはやライフスタイルを充足する場所ではなくなった。日本では1966年には玉川高島屋SC(東京・世田谷)の開業から全国に広がり、2009年に約1万平方㍍の中央広場バ

人つなぎ、街育てる拠点に変化

3000カ所と急拡大したSCが、18年の3220カ所をピークに減少に転じた。全国に量産されたSCは便利ではあるが、ワクワク感を感じることは少ない。コロナ禍での生活者の価値観の変化、行動変容により、明日のライフスタイルを感じるSCづくりが喫緊の課題である。

そんな中、20年4月に東京都立川市に開業した「グリーンスプリングス」は、

昨年、大型リニューアルした東京都江東区の「アーバンスプリングス」は、バンドックらっぽーと豊洲」と大阪府箕面市の「みやまCafe」の開設など、S

らうぼーと豊洲は以前からある子供向け就業体験施設「キッザニア」に加え、子育てファミリーで楽しめる飲食や物販も強化された。豊洲地区をはじめとする江東区の湾岸エリアは人

口が大幅に増加した。キユーズモールがある箕面市は、関西での「住んで良かった街NO.1」に選出され、生活環境に優れて、多くの子育てママが集まる風景を見ると、少子化

Cと一緒に子育て、まち育てを推進している。

ヨーロッパを見ると、各

国の多くの広場は、人が集まり人と接して緩やかな関係が作られるよう設

計されている。これから

SCに求められるのは消費

目的だけの場ではなく、人とのつながりによる地域の幸福を実現する「まち育て」

の担い手になることだ。物

の満足を得た生活者は利

便性よりも心地よさ、心の

ゆとりなどを優先する傾向

がある。

新しい時代にはSCとい

う名称より、人とモノ、人

と人、人と幸せをつなぐ「ギ

ヤザリングモール」がふさ

わしいかもしれない。

松本大地